

地上の星(39)

韓国の孤児 3 千人の母

田内千鶴子物語

(1912~1968)



朝鮮総督府の官吏の一人娘として生まれ、木浦高等学校を卒業したが 20 歳のとき父と死別。その後キリスト教伝道師、尹致浩が 7 名の子どもたちとともに始めた孤児院の応援を頼まれたのがきっかけで、尹と結婚。窮乏の中、増え続ける「木浦共生園」の孤児たち

のために二人は奔走する。1945 年 8 月 15 日、敗戦。日本に虐げられてきた韓国人々の日本人に対する恨みと怒りは凄まじく、千鶴子もあやうく殺されそうになるが、子供たちが盾となって必死に守り、村人は何も手出しが出来なかった。50 年には朝鮮戦争が勃発。木浦を占領した共産軍により人民裁判にかけられたものの、村人全員が千鶴子の無実を訴えたこと、そして夫の尹致浩も自分をまず死刑に、と訴えたため、共産軍もひるみ、無事だった。しかし、朝鮮戦争で共生園も孤児で溢れかえたため、食料調達のため光州へ出かけた夫は、何とそのまま行方不明に。千鶴子は夫がいつか帰ると信じながら、時には物乞いのようなことまでして子供たちを守り続け、いつしか育てた孤児は三千人に達していた。63 年韓国政府から第 18 回光復節文化勲章国民賞授与。68 年奇しくも誕生日のその日に召天。まだ 56 歳だった。千鶴子の葬儀には 3 万人近い人が集まり、その死を悼んだ。今回は、韓国人々から絶大な愛慕を受けた一人の日本人女性の捨て身の生涯を学びます。

記

1. 日時：3 月 6 日 (金) 10:30 AM より
2. 場所：ゴスペルホール (電話 026-295-6705)
3. 講師：尾崎富雄 (ゴスペルホール代表)

入場無料。どなたでも参加できます。